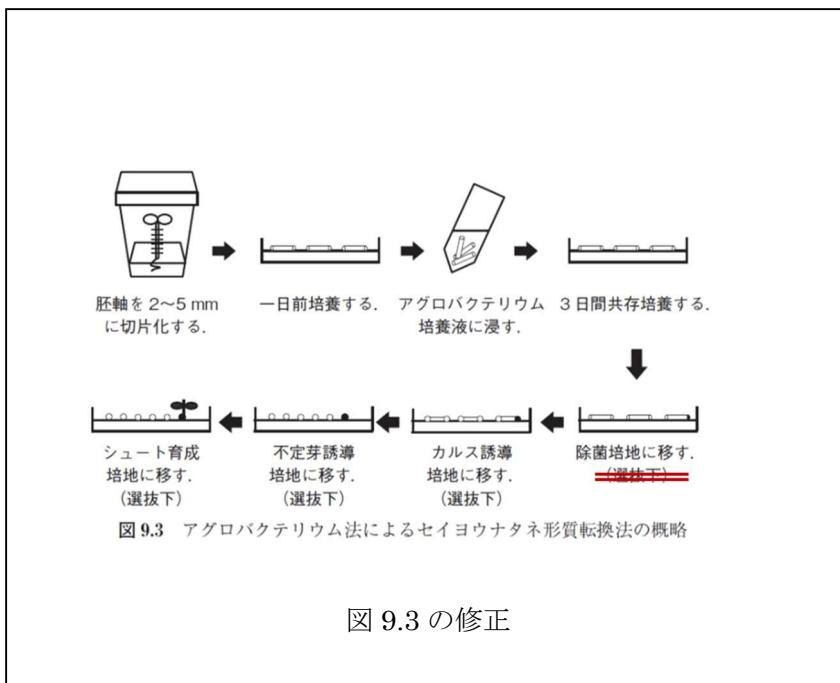


『遺伝学の基礎 第2版』の正誤表

ISBN: 978-4-254-40549-1

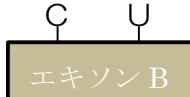
第1刷での正誤情報

場所	誤	正
p.61 図 6.6 左上	リン基	リン酸基
p.61 図 6.6 左中	フォスファターゼ	ホスファターゼ
p.67 図 7.1 左中	二本鎖 cDNA	一本鎖 cDNA
p.87 「b. 選抜マーカー遺伝子」6行目	ビアロホス	ビアラホス
p.89 図 9.3 右下	除菌培地に移す。 (選抜下)	「(選抜下)」を削除 (下図参照)
p.92 「b. 作物の遺伝的改変のための...」3行目と5行目	グリフォセート	グリホサート



第2刷での正誤情報

場所	誤	正
p.51 表 5.1, siRNA の名称	スマールインターフェアリング RNA	スマールまたはショートインターフェアリング RNA
p.52 上から 8~11 行目	miRNA (マイクロ RNA, micro RNA) は、その中の代表的な RNA 分子種で、 標的 mRNA を認識するためのガイドとしてタンパク質との複合体を形成する 。標的となつた mRNA は切断や分解されたり、翻訳の阻害を受けることになる。	miRNA (マイクロ RNA, micro RNA) や siRNA (スマールまたはショートインターフェアリング RNA, small または short interfering RNA) は、その中の代表的な RNA 分子種で、タンパク質との複合体を形成して、標的遺伝子の発現を制御している..
p.52 左余白、リボソームの下に右記を追加	(空白)	miRNA, siRNA miRNA はゲノム上の塩基配列から転写された一本鎖 RNA が 2 次構造をとり、加工されて短い一本鎖 RNA になる。類似性の高い配列を持つ標的遺伝子の mRNA を認識するためのガイドとして、タンパク質との複合体を形成し、標的遺伝子の mRNA の分解、翻訳阻害を引き起こす。二本鎖である siRNA も遺伝子の発現制御に関わる (第 10 章)。
p.103 上から 1~2 行目	short interfering RNA	削除
p.106 上から 4~10 行目	これは、量的形質では分離している遺伝子座の効果を個々に分けて調べることができないので、多くの作用力の小さい微働遺伝子を仮定したうえで、量的形質に対する遺伝要因の効果と環境要因の効果を統計的手法によって分けるための工夫	量的形質では分離している遺伝子座の効果を個々に分けて調べることができない。そこで、多くの作用力の小さい微働遺伝子を仮定したうえで、量的形質に対する遺伝要因の効果と環境要因の効果を統計的手法によって分けるために工夫をし

	である.	ていたのである.
p.107 下から 15 行目	すなわちばらつき	すなわち, ばらつき
p.108 上から 2~3 行目	場合である.	場合がある.
p.132 図 13.3 一番下の「エキソン B」		
p.137 最終行の下	(空白)	参考文献 1)日向康吉(1997):植物の育種学, p.55, 朝倉書店 ※参考文献を追加する
p.158 図 15.2 のキャプション最終行	...すべて偶然の機会による.	...すべて偶然の機会による. (原図:秋田県立大学 北本尚子博士) ※クレジット表記を追加する

以上